

4. インターフェース設定

イーサネットや無線 LAN を使用する場合の設定方法を説明します。

イーサネットを使用する

イーサネット接続の設定について説明します。

イーサネットケーブルやオプションの拡張無線 LAN ボードを使用して本体をネットワークに接続する場合は、使用するネットワーク環境に応じて、必要な項目を操作部で設定してください。

★重要

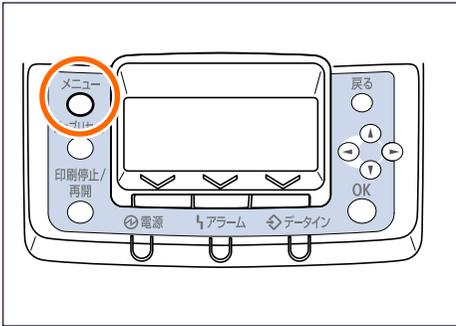
- ・ [ネットワーク設定] メニューで設定できる項目と、工場出荷時の値は以下のとおりです。
 - ・ 本体 IPv4 アドレス：
自動的に取得 (DHCP) : Off
IPv4 アドレス : 11.22.33.44
IPv4 サブネットマスク : 0.0.0.0
IPv4 デフォルトゲートウェイアドレス : 0.0.0.0
 - ・ IPv6 ステートレス自動設定機能 : 有効
IPsec : 無効
 - ・ 有効プロトコル :
IPv4 : 有効
IPv6 : 無効
SMB : 有効
AppleTalk : 有効
 - ・ イーサネット速度 : 自動選択
 - ・ インターフェース選択 : イーサネット
- ・ [ネットワーク設定] メニューでの設定が済みましたら、セキュリティーを設定してください。セキュリティーの設定については、『セキュリティーガイド』を参照してください。

↓補足

- ・ IPv4 を利用できる環境で IPv4 アドレスに関する設定をする場合は、Ridoc IO Admin や Web Image Monitor も使用できます。詳しくは、『ソフトウェアガイド』を参照してください。
- ・ DHCP 環境で使用する場合、IPv4 アドレス、サブネットマスク、IPv4 ゲートウェイアドレスは自動的に設定されます。
- ・ [イーサネット速度] は必要に応じて設定してください。詳しくは、『ソフトウェアガイド』「インターフェース設定メニュー」を参照してください。

IPアドレスを手動で指定する

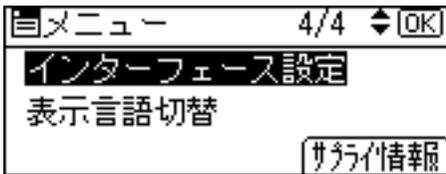
- 1 操作部の【メニュー】キーを押します。



BEJ008S

メニュー画面が表示されます。

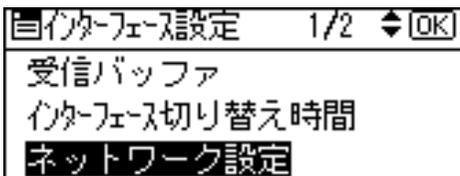
- 2 [▼] [▲] キーを押して【インターフェース設定】を選択し、[OK] キーを押します。



インターフェース設定画面が表示されます。

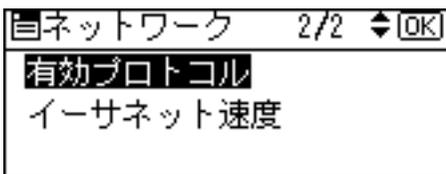
- 3 [▼] [▲] キーを押して【ネットワーク設定】を選択し、[OK] キーを押します。

工場出荷時の設定は、冒頭の「重要」を参照してください。



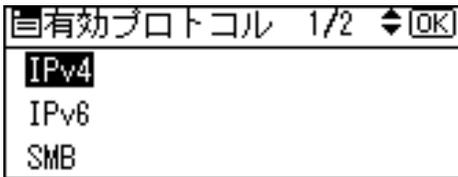
ネットワーク設定画面が表示されます。

- 4 [▼] [▲] キーを押して【有効プロトコル】を選択し、[OK] キーを押します。



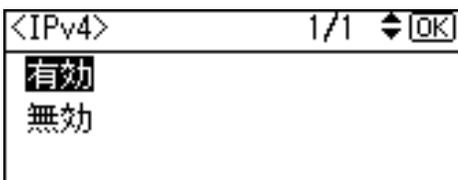
有効プロトコル設定画面が表示されます。

- 5 [▼] [▲] キーを押して使用するプロトコルを選択し、[OK] キーを押します。



ご使用にならないプロトコルは「無効」にしておくことをお勧めします。
ここでは IPv4 を有効にする例で説明します。

- 6 [▼] [▲] キーを押して「有効」を選択し、[OK] キーを押します。

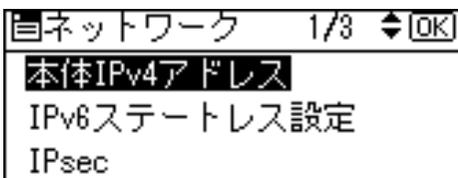


約 2 秒後に有効プロトコル設定画面に戻ります。無効にする場合は「無効」を選択し、[OK] キーを押します。

- 7 使用するプロトコルを続けて設定します。

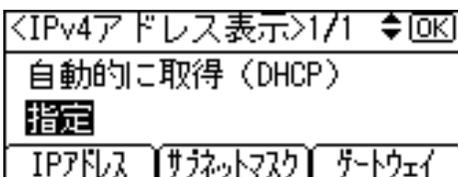
- 8 有効にするプロトコルの設定が終了したら、「戻る」キーを押します。
ネットワーク設定画面が表示されます。

- 9 [▼] [▲] キーを押して「本体 IPv4 アドレス」を選択し、[OK] キーを押します。



本体 IPv4 アドレス設定画面が表示されます。

- 10 [▼] [▲] キーを押して「指定」を選択し、「[IP アドレス]」の選択キーを押します。



現在設定されている IPv4 アドレスが表示されます。
設定する IPv4 アドレスは、ネットワーク管理者に確認してください。

11 [▼] [▲] キーを押して、カーソルのあるフィールドの値を変更します。

<IPv4アドレス>				↕ [OK]
アドレスを ◆キーで入力				
192	0	0	0	

- ・ [▼] [▲] キーを押し続けると、値が 10 ずつ増減します。
- ・ [▶] [◀] キーを押すと、フィールドを移動します。
- ・ 11.22.33.44 は使用できません。指定しないでください。

12 すべてのフィールドに値を入力して、[OK] キーを押します。

<IPv4アドレス>				↕ [OK]
アドレスを ◆キーで入力				
192	168	0	1	

本体 IPv4 アドレス設定画面に戻ります。

13 本体の IPv4 アドレスを確定させます。[▼] [▲] キーを押して [指定] を選択し、[OK] キーを押します。

<IPv4アドレス表示>1/1				↕ [OK]
自動的に取得 (DHCP)				
指定				
IPアドレス	サブネットマスク	ゲートウェイ		

設定が確定すると、以下の画面が表示されます。

※設定されました※				
自動的に取得 (DHCP)				
指定				
IPアドレス	サブネットマスク	ゲートウェイ		

約 2 秒後にネットワーク設定画面に戻ります。

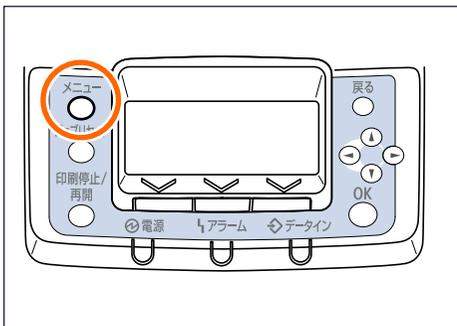
14 続けて、サブネットマスク、IPv4 ゲートウェイアドレスを設定します。
[サブネットマスク]、[ゲートウェイ] の選択キーを押し、IPv4 アドレスと同様の手順で設定します。**15** 「システム設定リスト」を印刷して、設定した内容を確認します。
「システム設定リスト」の印刷手順は、『かんたんセットアップ』「テスト印刷する」を参照してください。**16** [メニュー] キーを押します。
通常の画面に戻ります。**17** 「システム設定リスト」を印刷して、設定した内容を確認します。

↓ 補足

- ・「システム設定リスト」の印刷手順は、『かんたんセットアップ』「テスト印刷する」を参照してください。

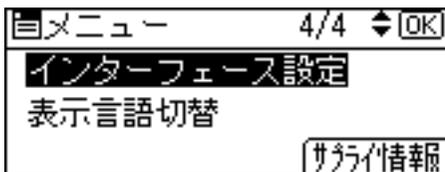
IPアドレスを自動的に取得する (DHCP)

- 1 操作部の [メニュー] キーを押します。



メニュー画面が表示されます。

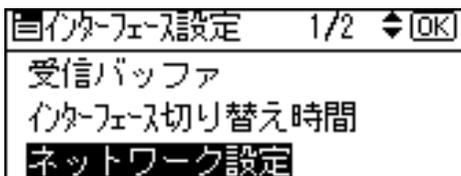
- 2 [▼] [▲] キーを押して [インターフェース設定] を選択し、[OK] キーを押します。



インターフェース設定画面が表示されます。

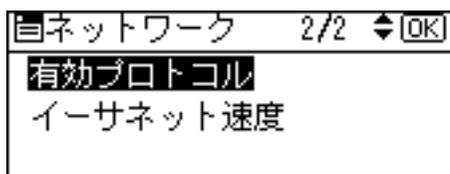
- 3 [▼] [▲] キーを押して [ネットワーク設定] を選択し、[OK] キーを押します。

工場出荷時の設定は、冒頭の「重要」を参照してください。



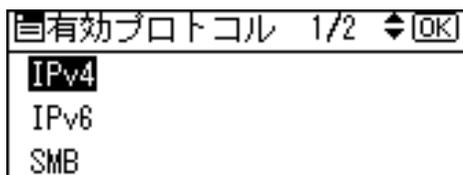
ネットワーク設定画面が表示されます。

- 4 [▼][▲] キーを押して [有効プロトコル] を選択し、[OK] キーを押します。



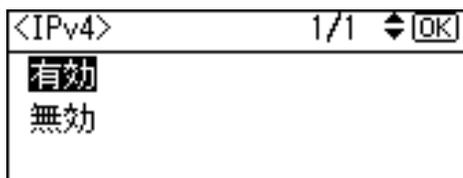
有効プロトコル設定画面が表示されます。

- 5 [▼][▲] キーを押して使用するプロトコルを選択し、[OK] キーを押します。



ご使用にならないプロトコルは [無効] にしておくことをお勧めします。
ここでは IPv4 を有効にする例で説明します。

- 6 [▼][▲] キーを押して [有効] を選択し、[OK] キーを押します。



約 2 秒後に有効プロトコル設定画面に戻ります。無効にする場合は [無効] を選択し、[OK] キーを押します。

- 7 使用するプロトコルを続けて設定します。

- 8 有効にするプロトコルの設定が終了したら、[戻る] キーを押します。
ネットワーク設定画面が表示されます。

- 9 [▼][▲] キーを押して [自動的に取得 (DHCP)] を選択し、[OK] キーを押します。



約 2 秒後にネットワーク設定画面に戻ります。

- 10 [メニュー] キーを押します。

通常の画面に戻ります。

- 11 「システム設定リスト」を印刷して、設定した内容を確認します。

↓ 補足

- ・「システム設定リスト」の印刷手順は、『かんたんセットアップ』「テスト印刷する」を参照してください。

通信速度を設定する

イーサネットの通信速度の設定方法について説明します。

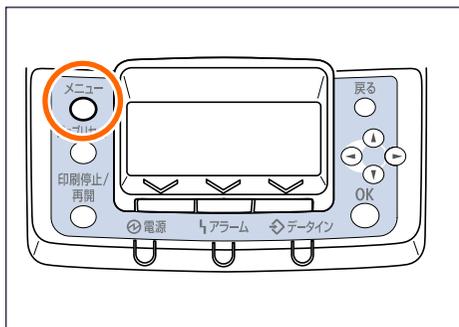
イーサネットの通信速度は、ご使用の環境（接続先の機器）を確認して、以下の表の○印の組み合わせになるように設定してください。

接続先	本体側				
	10BASE-T 半二重固定 [10Mbps 半二 重固定]	10BASE-T 全二重固定 [10Mbps 全二 重固定]	100BASE-TX 半二重固定 [100Mbps 半 二重固定]	100BASE-TX 全二重固定 [100Mbps 全二 重固定]	自動選択 [自動設定]
10BASE-T 半二重固定	○	-	-	-	○
10BASE-T 全二重固定	-	○	-	-	-
100BASE-TX 半二重固定	-	-	○	-	○
100BASE-TX 全二重固定	-	-	-	○	-
オートネゴシ エーション (自動選択)	○	-	○	-	○

★ 重要

- ・インターフェースの種別が一致しないと接続できません。
- ・通常は「自動選択」を選択してください。

1 操作部の [メニュー] キーを押します。

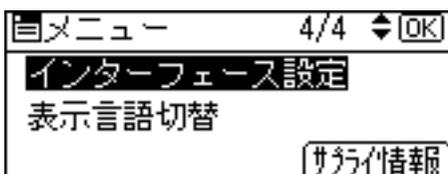


BEJ008S

メニュー画面が表示されます。

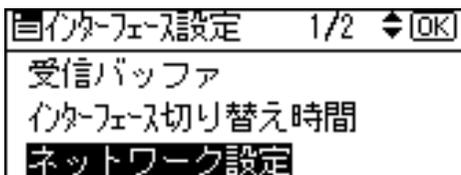
4

2 [▼] [▲] キーを押して [インターフェース設定] を選択し、[OK] キーを押します。



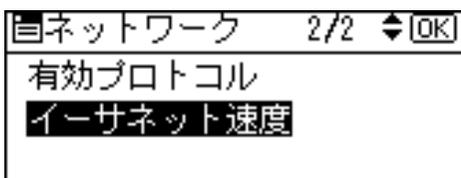
インターフェース設定画面が表示されます。

3 [▼] [▲] キーを押して [ネットワーク設定] を選択し、[OK] キーを押します。



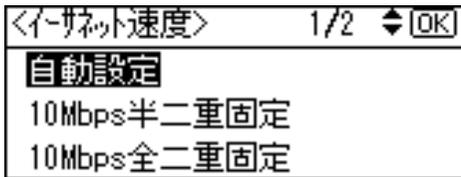
ネットワーク設定画面が表示されます。

4 [▼] [▲] キーを押して [イーサネット速度] を選択し、[OK] キーを押します。



通信速度設定画面が表示されます。

- 5 [▼] [▲] キーを押して設定したい通信速度を選択し、[OK] キーを押します。



約2秒後にネットワーク設定画面に戻ります。

- 6 [メニュー] キーを押します。
通常の画面に戻ります。

- 7 「システム設定リスト」を印刷して、設定した内容を確認します。

↓ 補足

- ・「システム設定リスト」の印刷手順は、『かんたんセットアップ』「テスト印刷する」を参照してください。

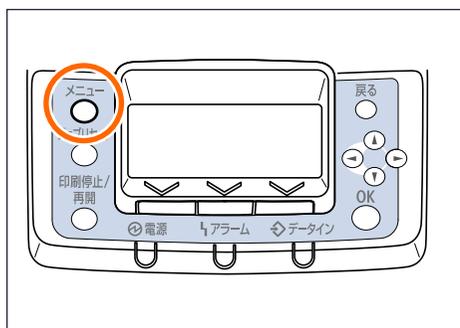
拡張無線 LAN を使用する

拡張無線 LAN を使用するときに必要な項目を設定します。

★重要

- ・ [無線 LAN] メニューで設定できる項目と、工場出荷時の値は以下のとおりです。
 - ・ 通信モード：インフラストラクチャー
 - ・ SSID 設定：入力値設定なし
 - ・ チャンネル：11 (IEEE 802.11b/g)、36 (IEEE 802.11a)
 - ・ セキュリティ方式選択：しない
 - ・ 通信速度：自動設定
- ・ 無線 LAN を使用するには、[インターフェース設定] で [無線 LAN] を選択し、[ネットワーク設定] で以下の項目を設定してください。設定方法については、「イーサネットを使用する」を参照してください。
 - ・ [IPv4 アドレス]
 - ・ [サブネットマスク]
 - ・ [IPv4 ゲートウェイアドレス]
 - ・ [有効プロトコル]
- ・ 拡張無線 LAN は、イーサネットインターフェースと同時に使用することはできません。

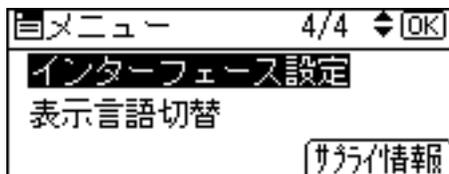
1 操作部の [メニュー] キーを押します。



BEJ006S

メニュー画面が表示されます。

2 [▼] [▲] キーを押して [インターフェース設定] を選択し、[OK] キーを押します。



インターフェース設定画面が表示されます。

- 3 [▼] [▲] キーを押して [無線 LAN] を選択し、[OK] キーを押します。



無線 LAN の設定画面が表示されます。

- 4 [▼] [▲] キーを押して [通信モード] を選択し、[OK] キーを押します。



通信モード設定画面が表示されます。

- 5 [▼] [▲] キーを押して使用する通信モードを選択し、[OK] キーを押します。



SSID の設定が必要ない環境で無線 LAN を使用する場合は、[アドホックモード] を選択します。

約 2 秒後に無線 LAN の設定画面に戻ります。

- 6 選択した通信モードに応じた設定を行います。

■ [802.11 アドホックモード] を選択した場合

- 1 通信に使用するチャンネルを設定します。[▼] [▲] キーを押して [アドホックチャンネル] を選択し、[OK] キーを押します。



現在設定されているチャンネルが表示されます。

設定するチャンネルはネットワーク管理者に確認してください。

- 2 [▼] [▲] キーを押してチャンネル数値を入力し、[OK] キーを押します。

<アドホックチャネル>					1/2	◀▶	[OK]
1	2	3	4	5			
6	7	8	9	10			
11	12	13	14	36			

無線 LAN の設定画面に戻ります。

- 3 通信に使用する SSID を設定します。[▼] [▲] キーを押して [SSID 設定] を選択し、[OK] キーを押します。

無線LAN		1/2	◀▶	[OK]
通信モード				
SSID設定				
アドホックチャネル				

SSID 設定画面が表示されます。SSID が設定済みのときは SSID を確認することができます。SSID が未設定のときは、「SSID は入力されていません。」と表示されます。

設定する SSID はネットワーク管理者に確認してください。

- 4 [SSID 入力] の選択キーを押します。

<SSID設定>		1/1	◀▶	[OK]
SSID入力				

「SSID を入力してください。」のメッセージが表示されたら、[入力] の選択キーを押します。

SSIDを入力してください。		入力
----------------	--	----

- 5 スクロールキーで文字を選択して [OK] キーを押し、文字列を入力します。

		◀▶	[OK]
ⓐ	bcdefghijklmnopq		
	rstuvwxyz@.-_&		
ABC/123	削除	入力終了	

- SSID で使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号で 32 バイトまでです。大文字と小文字も区別されます。
- [ABC/123] の選択キーを押すと、大文字のアルファベットや数字、記号の入力モードに切り替わります。
- [削除] の選択キーを押すと、入力した文字列が消去されます。

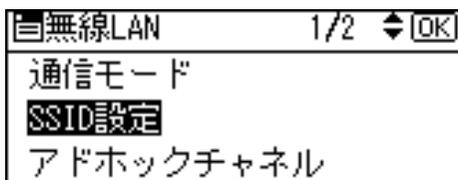
- 6 文字列の入力が完了したら、[入力終了] の選択キーを押します。



設定が確定し、無線 LAN の設定画面に戻ります。

■ [インフラストラクチャーモード] を選択した場合

- 1 通信に使用する SSID を設定します。[▼] [▲] キーを押して [SSID 設定] を選択し、[OK] キーを押します。



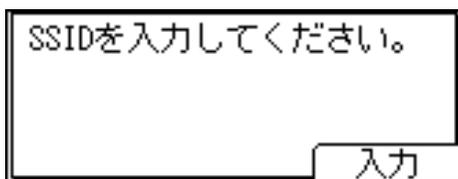
SSID 設定画面が表示されます。SSID が設定済みのときは SSID を確認することができます。SSID が未設定のときは、「SSID は入力されていません。」と表示されます。

設定する SSID はネットワーク管理者に確認してください。

- 2 [SSID 入力] の選択キーを押します。



「SSID を入力してください。」のメッセージが表示されたら、[入力] の選択キーを押します。



- 3 スクロールキーで文字を選択して [OK] キーを押し、文字列を入力します。



- SSID で使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号で 32 バイトまでです。大文字と小文字も区別されます。
- [ABC/123] の選択キーを押すと、大文字のアルファベットや数字、記号の入力モードに切り替わります。

- ・[削除] の選択キーを押すと、入力した文字列が消去されます。
- 4 文字列の入力が完了したら、[入力終了] の選択キーを押します。



設定が確定し、無線 LAN の設定画面に戻ります。

7 [メニュー] キーを押します。

通常の画面に戻ります。

8 「システム設定リスト」を印刷して、設定した内容を確認します。

「システム設定リスト」の印刷手順は、『かんたんセットアップ』『テスト印刷する』を参照してください。

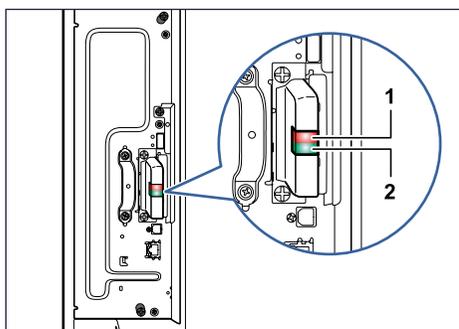
↓ 補足

- ・『ソフトウェアガイド』『プリンター本体の設定』
- ・『かんたんセットアップ』『テスト印刷する』

無線 LAN の接続を確認する

カード内蔵型の無線 LAN ボードを取り付けている場合の、拡張無線 LAN の接続を確認する方法を説明します。

拡張無線 LAN ボードの LED が点灯していることを確認してください。



BEJ040S

- 1 ネットワークに正常に接続していると、オレンジ色に点灯します。
- 2 電力が、機器本体から拡張無線 LAN ボードへ正常に供給されると、緑色に点灯します。

無線 LAN ご使用時の注意

無線 LAN では、LAN ケーブルの代わりに電波を利用して情報のやりとりを行います。無線 LAN の電波は、一定の範囲内であれば壁などの障害物も越えて到達するため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

◆ 個人情報の漏洩

- ・ ID、パスワード、クレジットカードの番号やメールの内容などが、第三者に盗み見られる。

◆ ネットワークへの不正侵入

- ・ ウィルスなどによってデータやシステムを破壊・改ざんされる。
- ・ 特定の人物になりすまして不正な情報を流される。
- ・ 機密情報が持ち出される。

これらの問題が発生する可能性を少なくするためには、本機や無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品に搭載されている機能を確認し、セキュリティに関する設定を行うことをお奨めします。

無線 LAN のセキュリティー方式を設定する

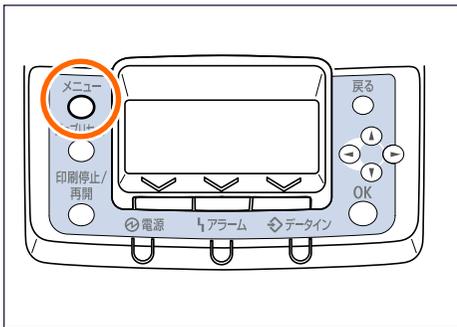
無線 LAN のセキュリティー方式の設定方法について説明します。ここでは WEP キーと WPA の設定について説明します。

WEP キーを設定する

ネットワーク内で WEP キーを使用している場合は、通信に使用する WEP キーを設定します。設定する WEP キーはネットワーク管理者に確認してください。

4

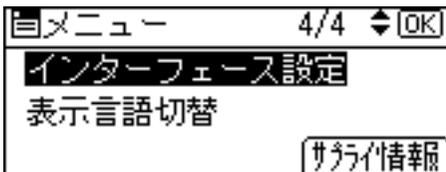
- 1 操作部の [メニュー] キーを押します。



BEJ008S

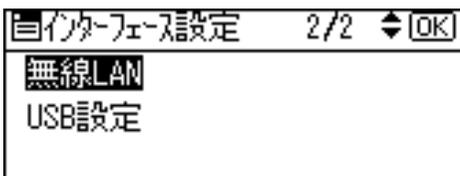
メニュー画面が表示されます。

- 2 [▼] [▲] キーを押して [インターフェース設定] を選択し、[OK] キーを押します。



インターフェース設定画面が表示されます。

- 3 [▼] [▲] キーを押して [無線 LAN] を選択し、[OK] キーを押します。



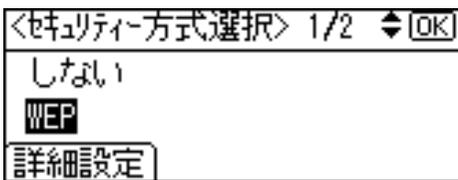
無線 LAN の設定画面が表示されます。

- 4 [▼] [▲] キーを押して [セキュリティー方式選択] を選択し、[OK] キーを押します。



セキュリティー方式選択画面が表示されます。

- 5 [▼] [▲] キーを押して [WEP] を選択し、[詳細設定] の選択キーを押します。



- 6 [入力] の選択キーを押します。



WEP キー入力画面が表示されます。設定する WEP キーはネットワーク管理者に確認してください。

- 7 スクロールキーを押して、WEP キーを入力します。



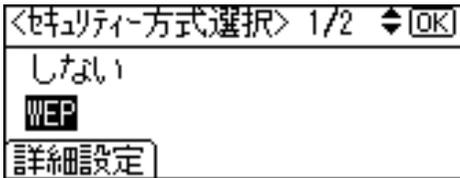
- ・ 64bit WEP を使用する場合、16 進数では 10 桁、ASCII 文字列では 5 桁の文字列が使用できます。128bit WEP を使用する場合、16 進数では 26 桁、ASCII 文字列では 13 桁の文字列が使用できます。
- ・ 入力できる桁数は、16 進数の場合は 10 桁か 26 桁、ASCII 文字列の場合は 5 桁か 13 桁に限られます。それ以外の桁数で入力を完了させると、「入力したキーの文字または桁数が正しくありません。」というメッセージが操作部の画面に表示されます。
- ・ ASCII 文字列の場合、大文字と小文字はそれぞれ別の文字として認識されます。
- ・ [ABC/123] の選択キーを押すと、大文字のアルファベットや数字、記号の入力モードに切り替わります。
- ・ [削除] の選択キーを押すと、入力した文字列が消去されます。

- 8 WEP キーの入力が完了したら、[入力終了] の選択キーを押します。



約 2 秒後にセキュリティー方式選択画面に戻ります。

- 9 WEP キーの設定を確定させます。[▼] [▲] キーを押して [WEP] を選択し、[OK] キーを押します。



これで WEP キーの設定は終了しました。
約 2 秒後に無線 LAN の設定画面に戻ります。

- 10 [メニュー] キーを押します。

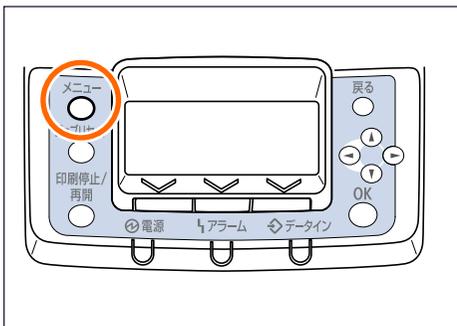
通常の画面に戻ります。

- 11 「システム設定リスト」を印刷して、設定した内容を確認します。
「システム設定リスト」の印刷手順は、『かんたんセットアップ』「テスト印刷する」を参照してください。

WPA を設定する

ネットワーク内で WPA を使用している場合は、通信に使用する WPA を設定します。設定する WPA はネットワーク管理者に確認してください。

- 1 操作部の [メニュー] キーを押します。



BEJ008S

メニュー画面が表示されます。

- 2 [▼] [▲] キーを押して [インターフェース設定] を選択し、[OK] キーを押します。



インターフェース設定画面が表示されます。

- 3 [▼] [▲] キーを押して [無線 LAN] を選択し、[OK] キーを押します。



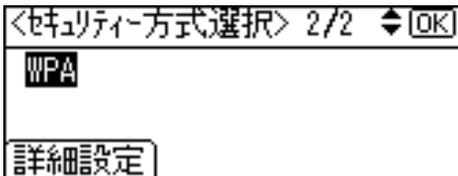
無線 LAN の設定画面が表示されます。

- 4 [▼] [▲] キーを押して [セキュリティー方式選択] を選択し、[OK] キーを押します。

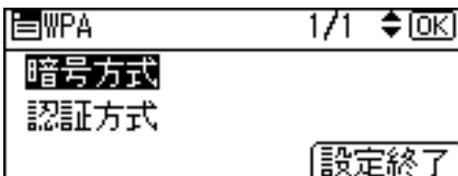


セキュリティー方式選択画面が表示されます。

- 5 [▼] [▲] キーを押して [WPA] を選択し、[詳細設定] の選択キーを押します。



- 6 [▼] [▲] キーを押して [暗号方式] を選択し、[OK] キーを押します。



7 [▼] [▲] キーを押して使用する暗号方式を選択し、[OK] キーを押します。

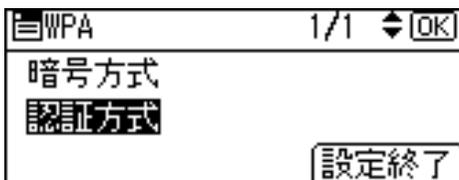


暗号方式の設定値は次のとおりです。

- TKIP
アルゴリズムに WEP と同じ RC4 を用いながら鍵の攪拌等により脆弱性を下げることができます。
- CCMP (AES)
AES (Advanced Encryption Standard) を使用することにより更にセキュリティーを高められます。

約 2 秒後に WPA 画面に戻ります。

8 [▼] [▲] キーを押して [認証方式] を選択し、[OK] キーを押します。



認証方式の選択画面が表示されます。

9 [▼] [▲] キーを押して使用する認証方式を選択し、[OK] キーを押します。



認証方式の設定値は次のとおりです。

- WPA-PSK
アクセスポイントとクライアントが共有する暗号鍵（共有鍵：Pre-Shared Key）を利用して認証を行います。事前共有鍵と呼ばれる 8~63 桁の ASCII 文字列を設定します。
認証方式の選択画面で [WPA-PSK] を選択し、[OK] キーを押します。PSK を入力する画面が表示されたら [入力] キーを押し、スクロールキーを押して入力します。
- WPA
証明書の導入の設定画面で [設定する] か [しない] を選択します。
この方式を選択した場合は、別途 Web Image Monitor にて証明書を導入してください。

- WPA2-PSK

WPA-PSK と同じく、アクセスポイントとクライアントが共有する暗号鍵（共有鍵：Pre Shared Key）を利用して認証を行います。事前共有鍵と呼ばれる 8～63 桁の ASCII 文字列を設定します。

認証方式の選択画面で [WPA-PSK] を選択し、[OK] キーを押します。PSK を入力する画面が表示されたら [入力] キーを押し、スクロールキーを押して入力します。

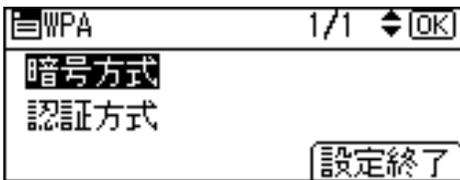
- WPA2

WPA2 は、WPA の追加仕様で、IEEE 802.11i への完全対応しています。

この方式を選択した場合は、別途 Web Image Monitor にて証明書を導入してください。

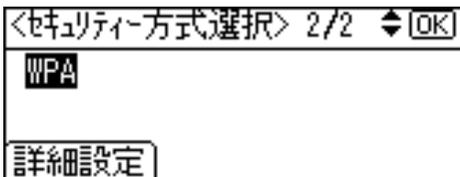
約 2 秒後に WPA 画面に戻ります。

10 [設定終了] の選択キーを押します。



約 2 秒後にセキュリティー方式選択画面に戻ります。

11 WPA の設定を確定させます。[▼] [▲] キーを押して [WPA] を選択し、[OK] キーを押します。



これで WPA の設定は終了しました。

約 2 秒後に無線 LAN の設定画面に戻ります。

12 [メニュー] キーを押します。

通常の画面に戻ります。

13 「システム設定リスト」を印刷して、設定した内容を確認します。

「システム設定リスト」の印刷手順は、『かんたんセットアップ』「テスト印刷する」を参照してください。

WPA/WPA2 の設定

ここでは、セキュリティ向上のための設定について説明しています。

WPA/WPA2 は、WPA-PSK/WPA2-PSK に比べ認証サーバーを利用することで更にセキュリティの向上を図っています。

WPA/WPA2 は、Web Image Monitor の管理者モードで設定します。

EAP タイプ（認証方式）は、EAP-TLS、LEAP、EAP-TTLS、PEAP の4つの種類を選択できますが、各 EAP タイプで証明書の要／不要、設定項目が異なりますのでご注意ください。証明書の種類、および要／不要については次のとおりです。

証明書が必要な場合は、証明書の導入を済ませた上で各項目の設定を行ってください。

◆「サイト証明書」が必要な EAP タイプ

EAP-TLS、EAP-TTLS、および PEAP（LEAP 以外は必要です）

◆「サイト証明書」および「機器証明書」が必要な EAP タイプ

EAP-TLS、PEAP（フェーズ2メソッドが“TLS”のみ）

★重要

- ・WPA/WPA2 を設定するには、SSL を有効にしてください。SSL の設定については、『ソフトウェアガイド』「SSL（暗号化通信）の設定」を参照してください。

Web Image Monitor の表示と管理者モードへのログイン

Web ブラウザーを使って、本機の状態を確認したり、本機のネットワークに関する設定を変更することができます。

この機能を Web Image Monitor といいます。

Web Image Monitor の表示方法と管理者モードでアクセスする方法について説明します。

Web Image Monitor の詳細については、『ソフトウェアガイド』「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

- 1 Web ブラウザーを起動します。
- 2 Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機のアドレス、またはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。
IPv4 アドレスを入力する場合、各セグメントの先頭に「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」と入力する場合は、「192.168.1.10」と入力します。
Web Image Monitor のトップページが表示されます。
- 3 Web Image Monitor のトップページで、[ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。
- 4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、[ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

サイト証明書の導入手順

- 1 認証局サーバーにアクセスし、「CA 証明書」を入手します。
証明書の入手方法は、ご使用の環境により異なります。
- 2 Web Image Monitor の管理者モードにログインします。
- 3 メニューエリアの [設定] を押します。
- 4 「セキュリティー」エリアにある [サイト証明書] を押します。
- 5 「インポートするサイト証明書」の [参照] を押し、入手した「CA 証明書」を選択します。
- 6 [インポート] を押します。
- 7 インポートした証明書の状態が「信頼できる」であることを確認します。
「サイト証明書チェック機能」が [有効] になっていて、証明書の状態が「信頼できない」場合、通信ができなくなる可能性があります。
- 8 [OK] を押します。
- 9 管理者モードからログアウトします。
- 10 Web Image Monitor を終了します。

補足

- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問い合わせください。

機器証明書の導入手順

- 1 Web Image Monitor の管理者モードにログインします。
- 2 メニューエリアの [設定] を押します。
- 3 「セキュリティー」エリアにある [機器証明書] を押します。
- 4 「機器証明書」画面で「証明書 1」または「証明書 2」を選択し、[要求] を押します。
- 5 「証明書項目内容入力」画面で「共通名」、「国コード」に適切な値を入力し、[OK] を押します。
- 6 「設定の書き換え中」画面が表示されます。1~2 分経ってから [OK] を押します。

- 7** 「機器証明書」画面で、「要求中」である証明書の[詳細]（メモ帳型のアイコン）を押します。
- 8** 「証明書詳細」画面の「証明書要求中文字列」内のテキストをすべてコピーします。
- 9** 認証局サーバーにアクセスし、コピーした「証明書要求中文字列」を使用して「CA 署名済み証明書」を入手します。
証明書の入手方法は、ご使用の環境により異なります。
- 10** 「機器証明書」画面で、「証明書 1」または「証明書 2」を選択し、[導入]を押します。
手順 4 で「証明書 1」を選択した場合は、ここでも「証明書 1」を選びます。「証明書 2」を選択した場合は、ここでも「証明書 2」を選びます。
- 11** 手順 9 でダウンロードした「CA 署名済み証明書」をテキストエディタで開き、書かれているものをすべてコピーします。
- 12** 「証明書要求の入力」画面で、コピーした「CA 署名済み証明書」の内容をすべて貼り付けます。
- 13** [OK] を押します。
- 14** 「設定の書き換え中」画面が表示されます。1~2 分経ってから [OK] を押します。
- 15** 「機器証明書」画面で、証明書の状態が「導入済み」になっていることを確認します。
- 16** 「利用する証明書」で、「証明書 1」または「証明書 2」を選択して [OK] を押します。

↓ 補足

- ・「機器証明書」画面で「証明書 1」と「証明書 2」はどちらも選択可能ですが、「証明書 1」を選択した場合は「利用する証明書」の「IEEE802.11」のドロップダウンメニューで [証明書 1] を選択してください。
- ・2 つの証明書の要求を同時に行うと、証明書の発行先が表示されない場合があります。
- ・証明書の要求を取りやめる場合は、[取りやめ要求] を押します。
- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問い合わせください。
- ・手順 6 や 14 で [OK] を押したあとに「ページが見つかりません」画面が表示された場合は、さらに 1~2 分待ってからブラウザの [更新] を押してください。

各項目の設定手順

- 1 Web Image Monitor の管理者モードにログインします。
- 2 「設定」画面の「インターフェース」エリアにある [無線 LAN 設定] を押します。
- 3 「通信モード」に [インフラストラクチャーモード] を選択します。
- 4 「SSID」をご利用のアクセスポイントに合わせて入力します。
- 5 「セキュリティー方式」に [WPA] を選択します。
- 6 「WPA 暗号方式」を、ご利用のアクセスポイントに合わせて選択します。
- 7 「WPA 認証方式」に、[WPA] または [WPA2] を選択します。
- 8 「ユーザー名」に、RADIUS サーバーに設定されているユーザー名を入します。
- 9 「ドメイン名」に、ご利用環境のドメイン名を入力します。
- 10 「EAP タイプ」を選択します。EAP タイプによって設定項目が異なります。
 - EAP-TLS
 - お使いの環境に合わせて設定してください。
 - ・「サーバー証明書の認証」を選択します。
 - ・「中間認証局の信頼」を選択します。
 - ・「サーバー ID」に、RADIUS サーバーのホスト名を入力します。
 - ・「サブドメイン許可」を選択します。
 - LEAP
 - ・「パスワード」の [変更] を押して、RADIUS サーバーに設定されているパスワードを入力します。
 - EAP-TTLS
 - ・「パスワード」の [変更] を押して、RADIUS サーバーに設定されているパスワードを入力します。
 - ・「フェーズ 2 ユーザー名」に、RADIUS サーバーに設定されているユーザー名を入力します。
 - ・「フェーズ 2 メソッド (EAP-TTLS)」を選択します。
 - お使いの RADIUS サーバーにより、使用できないメソッドがあります。
 - 以降の項目はお使いの環境に合わせて設定してください。
 - ・「サーバー証明書の認証」を選択します。
 - ・「中間認証局の信頼」を選択します。
 - ・「サーバー ID」に、RADIUS サーバーのホスト名を入力します。
 - ・「サブドメイン許可」を選択します。

PEAP

- 「フェーズ 2 メソッド (PEAP)」を選択します。
メソッドに [TLS] を選択した場合は、「WPA クライアント証明書」を選択します。
[MSCHAPv2] を選択した場合は、「パスワード」の [変更] を押して RADIUS サーバーに設定されているパスワードを入力するか、「フェーズ 2 ユーザー名」の [変更] を押して RADIUS サーバーに設定されているユーザー名を入力します。
以降の項目はお使いの環境に合わせて設定してください。
- 「サーバー証明書の認証」を選択します。
- 「中間認証局の信頼」を選択します。
- 「サーバー ID」に、RADIUS サーバーのホスト名を入力します。
- 「サブドメイン許可」を選択します。

11 [OK] を押します。

4

12 管理者モードから [ログアウト] します。

13 Web Image Monitor を終了します。

↓ 補足

- 設定の不具合により、お使いのプリンターと通信できなくなる可能性があります。本機からネットワークサマリーを印刷して状況を確認することができます。
- 原因が特定できない場合は、本機の設定を通常のインターフェースに戻した後、はじめから手順をやり直してください。